

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 山口県 】

学校名【 下関市立生野小学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ <b>V</b> (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年・第2学年 89名</li> <li>・第3学年・第4学年 100名</li> <li>・第5学年・第6学年 108名</li> </ul>
3 展開の形式	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校における活動</li> <li>・教科名 ( 体育 )</li> </ul>
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラグビーに関する関心を高めるとともに、スポーツを楽しむ心の育成を図る。</li> <li>・ながとブルーエンジェルス選手によるデモンストレーションや一緒に活動することを通して、運動や体力向上についての意欲を高める。</li> </ul>
5 取組内容	<p>○ながとブルーエンジェルス選手によるラグビー教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラダートレーニング (全学年) できるだけ早く足を動かしたり、リズムよく走ったりするトレーニングを行った。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーンの間を走る→タックル→トライ (全学年) ラグビーボールを持って、コーンの間をジグザグに走り抜け、選手に向かってタックルをする。そして最後にトライ！本当のラグビーの動きを体験することができた。特に、選手に向かってタックルする動きでは、体の大きい選手に向かう児童の姿はとても楽しそうで、めったにできない体験をすることができた。</li> </ul>

	<p>・パス&amp;ゴー（高学年）</p> <p>5、6名が1チームとなり、パスをしながらゴールを目指す。後にいる仲間にパスをし、パスを受け取った後、仲間を追い越してパスをするという一連の流れが難しそうだった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>6 主な成果</p>	<p>○ながとブルーエンジェルス選手の動きを実際に見ることにより、ラグビーのを知り、興味をもつ児童ができたことはよかった。</p> <p>○選手みなさんと一緒に活動することを通して、ラグビーの楽しさを感じるとともに、運動することのよさや楽しさを感じている児童もいた。</p>
<p>7 実践において工夫した点（事業の特色）</p>	<p>○全児童が体験できるように、低・中・高学年と3つのブロックに分けて行った。短い時間にはなったが、全児童が体験できたことはよかったと思う。また、ブロックごとに行うことにより、高学年ではパスを取り入れた動きが加わるなど、発達段階に応じた活動ができたことはよかった。</p> <p>○選手の話をお聴きというより、実際に活動する時間の方が長かったため、低学年でも楽しむことのできる内容だった。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○事前にラグビーがどのようなスポーツで、ながとブルーエンジェルスがどのようなチームなのかを、児童にもう少し詳しく説明しておくこと、ラグビーに関する知識や興味も深まったように感じた。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>来年度開催される東京オリンピック・パラリンピックへ向け、大会だけでなく、大会前に行われる各種行事の情報提供を行い、気運を高めていきたい。特に本校で体験させていただいたラグビーについては児童の興味、関心も高まっていることから、こまめな情報提供を行っていく。さらに可能であれば、来年度も本事業に参加し、事業の目的に合った取組を展開していきたい。</p>